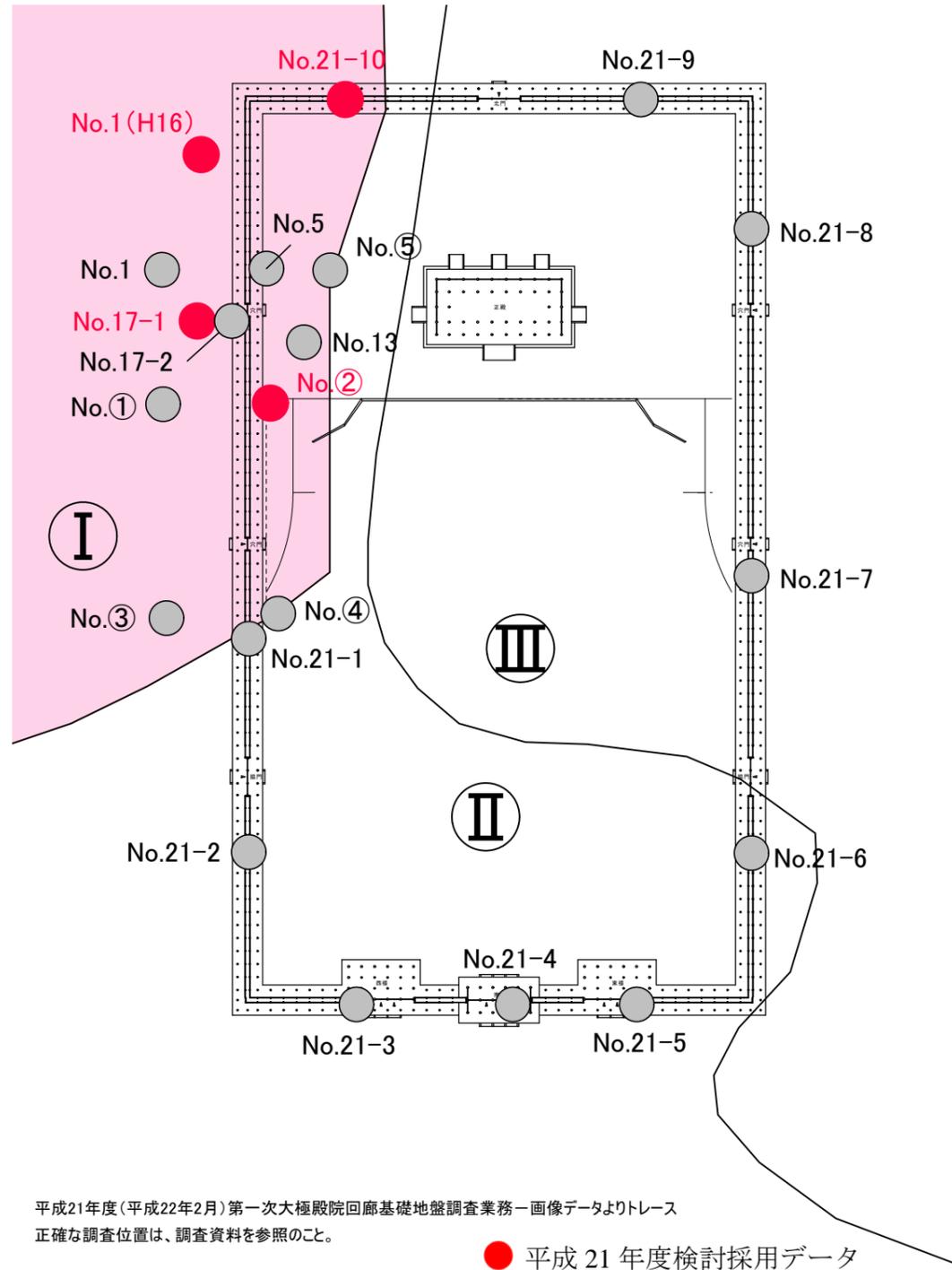


# (1) 地耐力の精査

## ① ゾーン I

ゾーン I の既往の地盤調査箇所的位置は以下の通りである。



平成21年度(平成22年2月)第一次大極殿院回廊基礎地盤調査業務—画像データよりトレース  
正確な調査位置は、調査資料を参照のこと。

● 平成 21 年度検討採用データ

図-1. 大極殿院の既往地盤調査ヶ所

表-1. ゾーン I 内の回廊計画位置にある既往のボーリングデータ一覧

ボーリング No.	平成 21 年度検討	調査年度
No.13	採用せず	昭和 46 年
No.① (H13)	採用せず	平成 13 年
No.② (H13)	採用	同上
No.③~⑤ (H13)	採用せず	同上
No.1、No.5	採用せず	同上
No.1 (H16)	採用	平成 16 年
B17-1	採用	平成 18 年
B17-2	採用せず	同上
No.21-1	採用せず	平成 21 年
No.21-10	採用	同上

ゾーン I の許容地耐力は、平成 21 年度に支持力検討・地盤圧密沈下計算を行って 20 kN/m<sup>2</sup> と設定されている。

この値は、平成 20 年度に実施された『平城宮跡区域（仮称）地盤等施工環境調査業務 検討委員会』にてまとめられた既往土質試験結果が加味されている。地耐力を精査する方法は以下の 2 通りと考えられる。

方法 1 追加ボーリング等の調査を行って許容地耐力を精査・細分化する。

方法 2 ゾーン I 内にあり、平成 21 年度検討に採用されなかった資料を用いて支持力検討・圧密沈下計算等を行って許容地耐力を精査・細分化する。

ゾーン I の地耐力の精査と細分化を行うために、方法 1 および 2 をともに実施する。

② ゾーンⅡ

平成21年度の調査結果6ヶ所の表層の土質により細分化する。  
地耐力算定は国土交通省 告示 第1113号に示された式により求める。

表-2. ゾーンⅡの回廊用の地耐力 単位 (kN/m<sup>2</sup>)

表層土質	平均値	常時荷重時	中地震時→常時換算	設計採用値
	最小値			
砂層 As	$\phi = 27$	134	182 → 91	49
	$\phi = 24$	80	98 → 49	
粘土 Ac	$c = 38$	69	139 → 69	33
	$c = 17$	33	67 → 33	

$\phi$  : 内部摩擦角(度)  $c$  : 粘着力

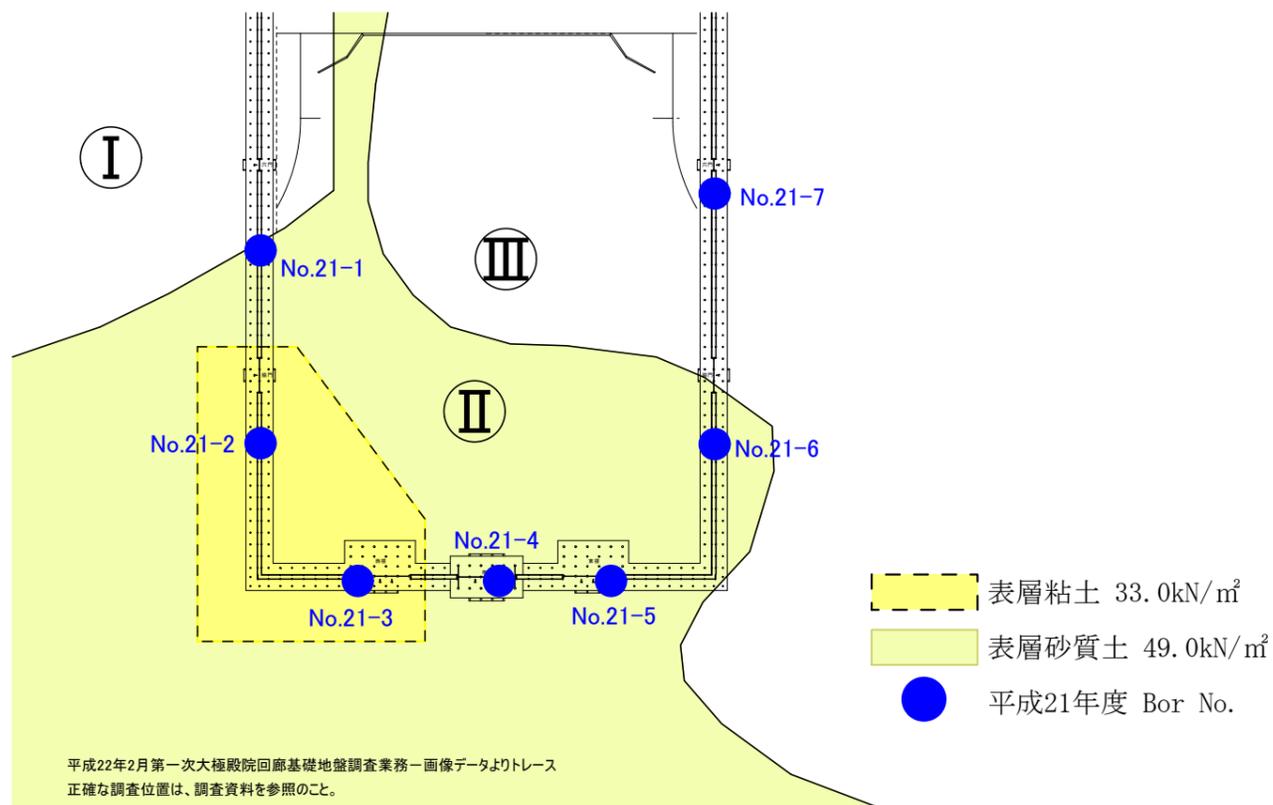


図-2. ゾーンⅡ 回廊用地耐力 区分図

③ ゾーン別 築地回廊 仕様区分

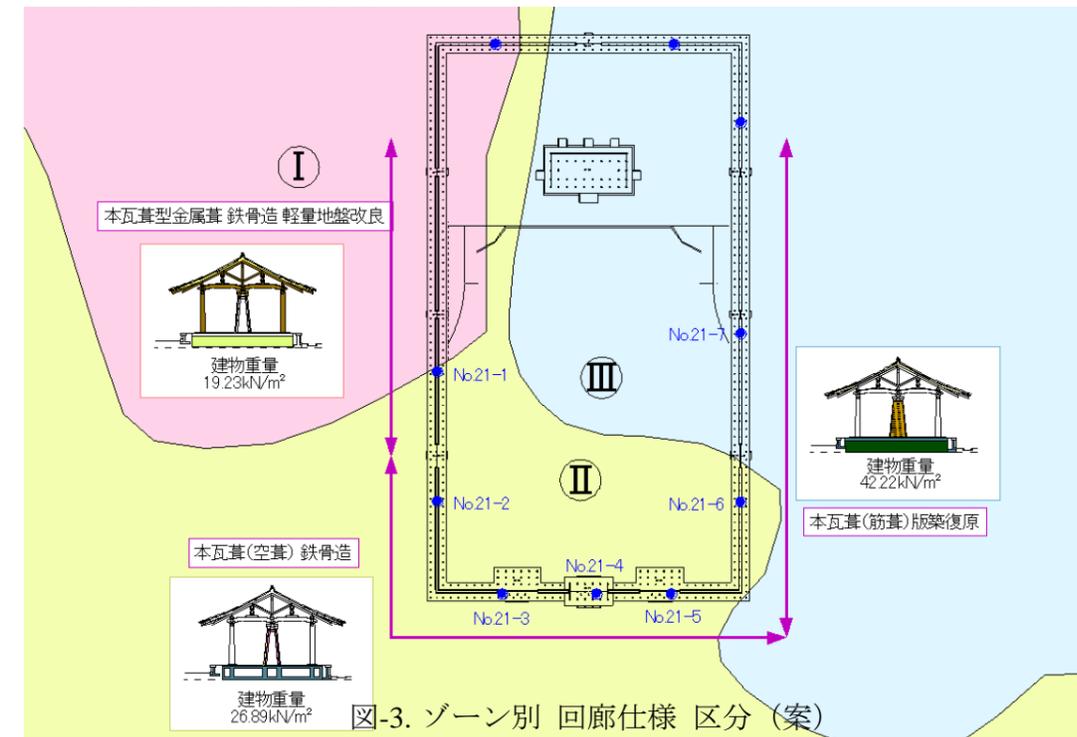


図-3. ゾーン別 回廊仕様 区分 (案)

築地回廊の上部構造について、地耐力からその仕様を考えると図-3のようになる。

- 東面 本瓦葺(筋葺) 版築復原
- 南面及び西面南寄り 本瓦葺(空葺) 鉄骨造
- 西面北寄り 本瓦葺型金属葺 鉄骨造 軽量地盤改良

今後、ゾーンⅠの地耐力の精査によって、本瓦葺型金属葺鉄骨造軽量地盤改良の仕様を見直し、本瓦葺(空葺)鉄骨造の範囲を調整する。